警告のニュースレター「角笛」

発行日：2016 年 11 月発行（第 79 号）

発行　：警告の角笛出版

価格　：フリーペーパー

角笛 HP: http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/

〔目次〕

◎巻頭メッセージ：　「大地震について」　エレミヤ
◎時代を悟る　「ヨガと瞑想的祈り」　H.F
◎お知らせコーナー　「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「大地震について」
by エレミヤ

本日は大地震について、という題でメッセージしたいと思います。黙示録は終末の日にかつてなかったような大きな地震が起きることを語ります。このことを見ていきたいと思います。以下のテキストの箇所から見ていきます。

黙示録16:18 すると、いなずまと声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほどに大きな、強い地震であった。

16:19 また、あの大きな都は三つに裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。そして、大バビロンは、神の前に覚えられて、神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。

ここには、終末の日に「人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほどに大きな、強い地震」が起き、そしてそれゆえ、都が分かれたり、町々が倒れることが描かれています。この記述を理解したいと思うのです。今は確かに大きな地震が世界中に起きています。ですので、単純に大きな地震が起きることの記述との理解もあるのでしょう。しかし、主は弟子たちに対してたとえを理解することを語りましたので、地震ということに関するたとえを理解したいと思うのです。

＜地震は揺るがしや、迫害に関するたとえ＞

さて、終末に関連して、地震が起きると聖書は他の箇所でも語っています。このことを見ていきましょう。

マタイ24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。

24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。

24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。

24:10 また、そのときは、人々が大ぜいつまずき、互いに裏切り、憎み合います。

　このマタイ書にも終末の日に地震が起きることが語られています。そして、その地震の記述とともに、正しいクリスチャンが「苦しい目に会う」こと、殺されることさらにキリストの名のゆえに、「すべての国の人々に憎まれる」ことも描かれています。

　さらにその日には多くのクリスチャンが「大勢つまずき、互いに裏切り、憎み合う」ことが描かれています。これらは、すなわち、教会に対する迫害や揺るがし、その結果として、教会やクリスチャンの信仰が倒されていくことを語るものです。ですので、聖書のいう地震とは実は教会やクリスチャンへの揺るがしや迫害、そのことをたとえで語っていることが理解できるのです。地震が起きると町や家が倒壊するものです。家や町は教会や教団のたとえであり、教会が揺るがしや迫害の中で、信仰を倒され、崩壊することをたとえで語っていることがわかるのです。

＜何故地震、揺るがし、迫害が許されるのか？＞

　さて、終末の日に地震すなわち、迫害や揺るがしが教会に起きるらしいことはわかりました。しかし、私たちの疑問は一体何故、神はそのような日、迫害や、揺るがしの日を教会に対して許されるのか？という疑問です。このことに関してヘブル書は以下の様に述べます。

ヘブル12:25 語っておられる方を拒まないように注意しなさい。なぜなら、地上においても、警告を与えた方を拒んだ彼らが処罰を免れることができなかったとすれば、まして天から語っておられる方に背を向ける私たちが、処罰を免れることができないのは当然ではありませんか。

12:26 あのときは、その声が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」

12:27 この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。

12:28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。

この箇所を見ていきましょう。

25 語っておられる方を拒まないように注意しなさい。なぜなら、地上においても、警告を与えた方を拒んだ彼らが処罰を免れることができなかったとすれば、まして天から語っておられる方に背を向ける私たちが、処罰を免れることができないのは当然ではありませんか。

　終末の日に地震が起き、迫害や揺るがしが起き、多くのクリスチャンが振るわれ、揺り動かされ、倒されることはありえそうです。その場合、どこがポイントなのでしょうか？私たちが倒されないためには、とどまるためには何が必要なのでしょうか？それは、ここに書かれているように、語っておられる方すなわち、聖霊の声に今耳を傾けているかどうかが大事なのです。

　今正しく聖霊の声を聞いていない人々はみな、その日倒れてしまうでしょう。しかし、今正しく聞いている人はそれらの揺るがしの中でもとどまり続けるでしょう。

12:26 あのときは、その声が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」

ここでは、地が揺り動かされ、天も揺り動かされることが描かれています。天地の意味合いにもたとえが使われているように思えます。天地は教会のたとえです。聖書はアブラハムの箇所で天地に関してこう語ります。

創世記22:17 わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。

アブラハムは全イスラエルの先祖です。そして、そのイスラエルに関して主はそれは、「空の星、海辺の砂」の様であると語りました。ですので、すべてのイスラエル人また、新約のイスラエルであるクリスチャンもまた空の星、海の砂なのです。星は空、天にあり、砂は地にあります。ですので、天地はクリスチャンが存在する場所として教会のたとえなのです。

天地の違いは何でしょう？地はこの世に属する場所です。ですので、地の砂はこの世についたクリスチャンをさすと理解できます。彼らは、その日、終末の日に揺り動かされ、倒されていきます。

「天も揺り動かす。」

しかし、終わりの日には、地だけでなく、天すなわち、天的な教会も揺るがされることが描かれています。正統的な信仰を持ち、熱心に神に仕えているという教会も揺り動かされ、その真の実態があらわれてしまいます。天が揺り動かされるとは普通に考えればおかしな表現なのです。普通はどんな大きな地震でも天が揺り動かされることはないからです。地震でいくら家やビルが揺れても天の飛行機が揺るぐこともないし天を飛ぶ鳥が揺り動かされることもないのです。ですのでこれは、確かにたとえの表現なのです。ですので、終末の日には、全世界の教会全てが揺り動かされるような世界規模の地震、すなわち迫害や、揺り動かしがある、と理解したほうがよいのです。例外はないでしょう。このことに関して黙示録３章はこう語ります。

黙示録3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。

ここに書かれているように、その試練の日、艱難時代は全世界に及び、全教会に及ぶのです。例外はありません。まして、艱難の前に挙げられる教会などないのです。

12:27 この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。

さて、ここで揺り動かし、地震、迫害が起きるその理由が書いてあります。それは、その地震を通して「決して揺り動かされることのないものが残るため」なのです。

Damage from 1964 Good Friday Earthquake at Turnagain Arm, Anchorage Credit: NOAA

その日、大地震が起き、町は崩壊する

この箇所は人の視点ではなく、神の視点で書かれていることを理解しましょう。私たちクリスチャンの視点、考えは、地震も迫害も艱難時代も来てほしくない、というものです。しかし、神の視点は少し違います。神の視点はこの地震、艱難を経てもなお、正しく堅く残るものに目を注がれているのです。逆にそのような地震で倒れたり、艱難の中で神やキリストを裏切るクリスチャンはそれだけのものであり、神はそのような人に目を注いでいるわけではないのです。

12:28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。

ですから、御国すなわち、教会を我々が建てようとするとき、その日、すなわち揺り動かしの日、迫害の日を前提に備えるべきなのです。その日、私たちの建てた家、教会が崩壊してしまうなら、何の意味もないからです。私たちは、揺り動かされない御国、すなわち教会を建てるべきなのです。

＜宝物とは何か？＞

さて、このヘブル書のことばは、以下のハガイ書２：６～８の引用です。この箇所をも見ていきましょう。

ハガイ 2:6 まことに、万軍の主はこう仰せられる。しばらくして、もう一度、わたしは天と地と、海と陸とを揺り動かす。

全ての教会が揺り動かされる地震の日、すなわち艱難時代が近づいています。

2:7 わたしは、すべての国々を揺り動かす。すべての国々の宝物がもたらされ、わたしはこの宮を栄光で満たす。万軍の主は仰せられる。

何故、神はあえて終末の日に地震を起こし、艱難時代を到来させ、揺り動かしを許すのでしょう？その理由がここに書かれています。それは神の視点です。すなわち、神の前に「すべての国々の宝物がもたらされ」るためなのです。宝とはこれらの迫害や艱難の中でも主の前にとどまり、神のことばを真実としてとどまり続ける人々です。彼らこそ神の前に宝なのです。ですので、言い方を変えるなら、地震すなわち、艱難時代とはある意味、神の計画の中で起きたことなのです。

2:8 銀はわたしのもの。金もわたしのもの。——万軍の主の御告げ。——

宝物とは、具体的には金や銀であることがここでは書かれています。金や銀は、溶鉱炉の火を通して精錬されます。同じように試練の火を通して、なおかつとどまり、信仰を持ち続ける人こそ、神の前に金であり、銀なのです。このことは主の初降臨の日を考えれば理解できるでしょうか。主の初降臨の日、４０００人、５０００人の群集が話を聞きに集まりましたが、彼らは別に神の前に宝ではありません。逆に群集は、当初はキリストを信じながらも後に態度を変えます。イエスはカルトであると聞き、また「イエスをキリストだというと会堂から追い出される」と聞き、彼らは態度を豹変させました。最後には群集はイエスを捕らえ、十字架につけて殺すことに加担したのです。彼らは地震に揺るがされる人々であり、宝ではありません。

しかし、同じような状況でもイエスにとどまり続けた人々もいます。それは１２弟子を始めとした弟子です。彼らはキリストの最後の日まで忠実にとどまり続けました。彼らこそ神の前に宝物であり、試練の中でも金や銀の信仰を保ち続けた人々なのです。終末の日にはこのストーリーが再現するようになることを知りましょう。終末の艱難の中でも最後まで、主にとどまり続ける人これらの人こそ神の前には宝なのです。

＜神の目は宝に注がれている＞

初降臨の日、神の目は明らかに宝となる少数の人々に注がれていました。それ以外の結局は倒れ、揺るがされる人々には注がれていませんでした。そして、そのこと、神が目を宝となる人々に注がれるということは、再臨のときも同じであることを知りましょう。

神は他でもその目を宝に注いでおられることを語っています。以下を見てください。

マタイ13:44 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。

この箇所を考えてみましょう。ここで登場する人はキリストのことです。キリストは畑の宝を見つけると「大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。」と書かれているように、ご自分の命を犠牲にして畑すなわち、全てのクリスチャンのあがない、すなわち買取りをします。しかし、この箇所で注目すべきことは確かに畑を買うためにこの人は買取をしたのですが、しかし畑全部が宝ではない、ということです。前述のユダヤ人の様にすべての人、すべてのクリスチャンがキリストの前に宝ではないのです。彼らは畑として、確かにキリストにより、買い取られ、あがないを受けているのです。ですから、天国へ入る資格は持っているのです。しかし、キリストの目は宝に注がれており、迫害を経てもなおかつとどまる人々に注がれています。そして、この箇所ではあがない、キリストの犠牲の本当の目的はこの少しの宝、人数的には少ない宝を得るために、行われたことが書かれているのです。神の本音、目的は宝にあり、キリストの目は、宝に注がれているのです。そのことがここではさりげなく書かれているのです。

＜終末の日、クリスチャンに対して選びがあり、選別がある＞

そのようなわけで、私たちは聖書が終末の日に関して明らかに語っている事実、基本的な事実を理解しましょう。それは、終末の日に明らかにクリスチャンの間に選別があり、よりわけがあり、揺り動かしがあり、差別がある、という事実です。聖書の多くのみことばがこのことを語ります。

今回のこの箇所は地震、揺るがしを通してのクリスチャンの選別を語ります。それ以外にも、以下の様に聖書はその日のクリスチャンの選別を語ります。

1. 良い麦、悪い麦：マタイ１３章
2. 良い魚、悪い魚：マタイ１３章
3. 賢い娘、愚かな娘：マタイ２５章

これらの箇所に登場する麦、魚、娘はみな、クリスチャンをさすたとえです。麦はパンすなわち、キリストのみことばを通して成長するものとしてクリスチャンのたとえです。また、魚は聖霊の水の中に生きるものとしてクリスチャンのたとえです。また、娘はキリストに嫁ぐものとしてのクリスチャンのたとえなのです。

そして、そのクリスチャンの中にその主の再臨の日に選別があり、ある人は選ばれ、ある人は選ばれず、逆にその罪や、不従順のためにキリストの怒りをかうことが描かれているのです。これらを踏まえて正しく終末の備えをしていきましょう。以上

路傍伝道のゆえに逮捕される牧師

時代を悟る　「ヨガと瞑想的祈り」　H.F

時代を見分けなさいと主イエスは言われています。では今の時代はどのような時なのでしょう？

今は多くの人が健康を気にする時代です。食事や食材に気を使う人々や、ジムに行きジョギングやウォーキングをする人も多くいます。そしてヨガもその一つでしょう。健康法としてヨガは非常に人気があり日本でもすっかり定着しています。世界的雑誌フォーチュン紙も、ヨガや東洋的な瞑想のマーケットは世界的に成長していると特集を組んでいます。

アメリカの小学校などでもヨガクラスや、子供を落ち着かせるため瞑想を取り入れているところがあります。また企業では社員のストレス軽減のために、マインドフルネスという瞑想法が広がっています。このようにヨガや瞑想は人気です。この傾向は世界的にますます広がって行くでしょう。

しかし、ヨガ・瞑想はその根幹に、ヒンズー教があります。ヨガの呼吸法やポーズには、ヒンズー教の神を受け入れる意味が入っています。また瞑想は禅、仏教など東洋的な宗教のものでもあり、ヨガや瞑想をすることで、ヒンズー教や仏教、禅などの影響を受けているのです。ニューエージの影響もあります。目には見えないことなのですが、神の霊ではない悪霊の影響を大きく受けているのです。

では今のキリスト教会の状況はどうでしょうか？

アメリカのYMCA やYWCAではヨガのクラスが多くあります。健康のためにヨガをしている牧師もいます。

瞑想のプログラムを取り入れているカナダのカトリック系の小学校もあります。

瞑想的な祈りをカトリックは指導しています。日本でもよく知られているヘンリー・ナウエンも瞑想の祈りを薦めています。

カトリックと同じくアメリカのプロテスタント教会でも瞑想的な祈りを用いる所が出てきています。アメリカのミッション系の非常に多くの大学や神学校では瞑想精神を進めています。

しかし異教的な方法の瞑想を、祈りの中に気軽に取り入れるのは危険でしょう。瞑想し落ち着かせて祈ること、そう聞くと良いように思えるかもしれませんが、聖霊ではない悪霊の影響を受けることになります。

第二コリント１１：１４で「サタンさえ光の御使いに変装するのです。」と、ありますように、悪魔は簡単に人を惑わすことができるのです。

また、祈りは香をたくことに例えられています。

詩編１４１；２

私の祈りが、御前への香として、私が手を上げることが、夕べのささげ物として立ち上りますように。

黙５：８でも「この香は、聖徒たちの祈りである。」

とありますように、主の前に香ばしい香りとして、私たちの祈りは立ち上るのです。しかし、異なった霊に導かれた祈りは主の前に受け入れらません。

出エジプト30：9「あなた方は、その上で、異なった香や全焼のいけにえや穀物のささげものをささげてはならない。

時代を悟る　「ヨガと瞑想的祈り」　H.F

レビ記10：1～2「さて、アロンの子ナダブとアビブは、おのおの自分の火皿を取り、その中に火を入れ、その上に香を盛り、主が彼らに命じなかった異なった火を主の前にささげた。すると、主の前から火が出て、彼らを焼き尽くし、彼らは主の前で死んだ。」

アロンの2人の息子が異なった香をたいた時、主の怒りを受け、火で焼かれ死にました。これは、異なった霊で祈る時、主の怒りを受け滅ぶということの型であり、私たちへの警告ではないでしょうか。

瞑想の祈りは異教の霊、悪霊に導かれた祈りであり、異なった香をたいているのです。

しかもアロンの2人の子は特別な祭司でした。宗教的指導者が誤った香をささげたのです。これは指導者が悪霊により祈ったということです。旧約の出来事は今の信仰者たちへの警告でもあります。

これはまさに今の時代において、教会の指導者たちが異なった霊の祈りをしていくということを意味しているのではないでしょうか。

今、多くの教会、クリスチャンがヨガや瞑想の祈りという異教的なものを気軽に取り入れています。教会は世の中の流れに従い流行を取り入れています。祈りの中に異教の神々の方法を取り入れて悪霊を取り込んでいます。

大したことではないととらえるなら、その危険を理解していません。異教の物と混ぜ合わせることで悪霊の深刻な影響を受け神の怒りにより滅びを刈り取ってしまう、と聖書は警告しています。

しかし今、教会自体が世をみずから取り込んでいるのです。

今の時代は教会においても悪霊的な惑わしが多く入り込んでいるのです。

第二コリント１１：１「サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。」

とあります。

もはや、教会だから指導者が言うことだから大丈夫だ、という時代ではなく、むしろ教会のリーダーたちによっておかしなことに引き込まれる時代なのです。一人一人が御言葉に従い霊を見極め、時代を悟らねばなりません。

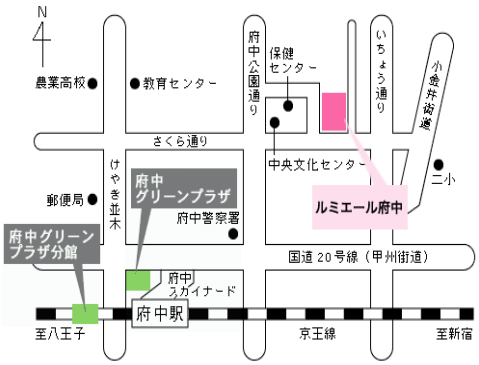
ヨガの瞑想

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」

定価:¥1,500＋消費税　※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
警告の角笛出版　tel:042－364－2327　fax:020－4623－5255
mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会 「日曜礼拝」 のご案内

曜日/時間:毎週日曜日　午前 10:30－12:30
　　午後 14:00－16:00
場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
(tel:042－360－3311)
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu－cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。
ご興味のある方は、“Yahoo！Japan”で、「府中　レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋
http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/
☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風
http://whattopics.at.webry.info/
☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ＆ミルトス
http://remnantnotudoi.jimdo.com/
☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家
http://87494333.at.webry.info/